

2026年9月28日

T.Kobayashi

大相撲九月場所を楽しむ
またまた土俵の15日間 印象雑記

横綱・大関の安定度が低く、下位の力士でも優勝の可能性がある時代が続いている。
このため、次の時代を狙う力士が頭をもたげ始めて、乱戦・混戦の場所が多くなってきた。
それでもなお、横綱・大関への昇進の基準を見直すこともなく、「空気」と「勢い」だけを重視した「瞬間最大風速に乗った昇進」を繰り返して、「地位を守れない横綱・大関」を生んでいるのは、残念なことである。そんな環境下で、今場所はどんな15日になるのだろうか。毎日の印象を記録して見た。

●9月13日（初日の印象）

直前に横綱豊昇龍の休場が発表されて、場所が始まった。

関脇以上の役力士が白星という平穏なスタートとなりはしたが、細かく見ると……。

横綱大の里は、大栄翔の執拗な攻めに引き技を見せ、大栄翔に攻撃の機会を与えてしまった。

土俵際の身のこなしで辛勝したが、「攻められると引く」という悪い癖がまだ治らず、今場所がどんな形で終わるのか心配な内容だった。

霧島・安青錦は、腰の構えが決まった落ち着いた取り口で、安定感を感じさせた。

今場所は、この二人を軸にして、元気な若手が活躍する、目の離せない15日間になるように感じた。

●9月14日（二日目の印象）

同部屋兄弟力士の朝翠龍・朝紅龍が、ともに若々しい取り口で良い空気を作っていた。

また、今やベテラン力士となった朝乃山と隆の勝が、さすがと唸るような旨い相撲で、若手に交じって存在感を示していた。

豪ノ山・熱海富士の迷いのない「自分の相撲」が光っていて、何かを残しそうな気配を感じた。

霧島・安青錦は、危なさをいささかも見せぬ取り口で二連勝とした。大の里・琴櫻のぎこちない相撲と対照的だった。

●9月16日（四日目の印象）

大の里も安青錦も敗れて、全勝は琴櫻だけになってしまった。とは言っても、琴櫻の相撲も安心と期待ができるような内容ではない。まだ四日目で、1敗力士は16人、まだまだ先のことはわからない。

今場所は、若手の活躍もさることながら、美ノ海・朝乃山などのベテラン力士が良い動きをしている。

今場所も渾沌・混乱の場所になるのだろうか。

●9月17日（序盤終了・五日目の印象）

宇良・朝乃山・狼雅が良い動きをして、内容のある相撲をとっていた。藤ノ川が伯乃富士を休みなく攻めまくり、一方的に押し出した相撲は見応えがあった。速攻相撲の伯乃富士が、何も手出しをできずに敗退した、藤ノ川の相撲に大きな拍手が鳴り響いた。

豪ノ山が安青錦を一直線の相撲で押し出した相撲も、豪ノ山の決意が感じられる素晴らしい取り口だった。琴櫻を破った美ノ海の取り口も合わせて、意志を持って、意地を持って攻める者の強みを感じた。

琴櫻が敗れたことにより全勝力士はいなくなり、大の里・霧島・琴櫻・熱海富士・美ノ海・狼雅・朝乃山・宇良・寿之富士の九人が1敗で並んだ。横綱・大関がこの中に含まれているので安心できたがこの先どんな展開になるのか。

●9月18日（六日目の印象）

六日目まで来ると、それぞれの力士の「今場所の調子」が見えてくる。

寿之富士・宇良・朝乃山の動きが良く、良い相撲をとっていた。

美ノ海は今日も「上手い」「早い」「多彩」、顔つきから見ると自信をもって土俵に上がっているのがよくわかる。熱海富士の「迷わず前進」とともに光って見える。

琴櫻は隆の勝を退けて1敗を堅持したが、相撲内容を見ると「流れて勝った」という印象が強い。

霧島は義ノ富士に好きなように相撲を取られて、上手投げで転がされた。苦手意識があるのだろうか。

安青錦は、藤ノ川の矢継ぎ早の攻勢に抗することもできず完敗。土俵上の所作や、戦いの後で土俵下を歩く姿を見ると、明らかに足首に痛みがあることがわかる。これからは黒星の可能性がありそうだ。

大の里は、豪ノ山の電車道の攻めを受けて、立ち腰ではたきの動きを見せ、そこを付け込まれた。

機を見て猛進する豪ノ山の攻めに何もできず土俵際まで下がり、片足立ちではたき込み、辛うじて勝ち星を得た。単なる「悪い癖」なのか、足腰が踏ん張ることが出来ずはたくのか。まだ危機を脱してはいない。

●9月19日（七日目の印象）

NHKの中継は、芸能人がゲストで登場する日なので、生で見ずにビデオ録画で鑑賞することにした。ゲストが登場すると、相撲とは関係のない無意味な会話が多くて、相撲鑑賞の妨げになるので、いつものように早送りですきップしながらの鑑賞。

藤青雲が差し手争いの中で朝乃山を肩透かして転がした相撲は、藤青雲の腰の構えにぐらつきがなく大物の可能性を感じさせるものだった。

藤ノ川は今日も元気の良い相撲で、押し相撲の大栄翔に押し勝った。毎日持てる力をすべて出し切ったような、速い動き・鋭い攻め・休みない動きで相撲を取っている。新関脇、ここまで5勝2敗は立派。

足首に不安を感じさせる場面が感じられた安青錦は、熱海富士を相手に低い姿勢を保った安定した取り口で寄り切った。

琴櫻は、藤凌駕の攻めをうまく裁いて肩透かして仕留めたが、膝が伸びたまの棒立ち。

いつの間にか先頭集団は崩れてしまい、1敗で残ったのは大の里と琴櫻だけになった。二人とも、このまま突っ走れそうな内容ではないので、今場所も混戦で12勝3敗の優勝のような気がしてきた。

●9月20日（中日を終わって）

結末から先に書くが、中日を終わってこんな結果になった。

	横綱・大関	関脇・小結	平幕
7勝1敗	大の里		
6勝2敗	琴櫻	熱海富士・藤ノ川	美ノ海・朝乃山・宇良・金峰山・寿之富士

横綱・大関の信頼性が今一つな感じがする。今日の相撲の中では、藤ノ川・美ノ海・朝乃山の相撲が光っていたが、過去に賜杯争いの経験がある熱海富士が加わっての混戦模様が予想できる。

明日の琴櫻・藤ノ川戦が、今後の方向性に影響する「重要な一番」になりそうな気がする。

初日の印象とは裏腹に、霧島は、昨日までにどこかを痛めたようで、足腰の運びに力がなくなった。

●9月21日（九日目）

新入幕に負けてたまるか、と言わんばかりに若元春が寿之富士を圧倒的な相撲で寄り切って意地を

	横綱・大関	関脇・小結	平幕
8勝1敗	大の里		
7勝2敗		熱海富士・藤ノ川	美ノ海・金峰山

見せた。朝乃山は隆の勝の猛攻に翻弄されて敗退、宇良も欧勝馬に叩きこまれて後退。

藤ノ川は、腰高で攻める琴櫻を

上手投げで仕留めて、大関を引きずり下ろした。その結果、賜杯争いは1敗の大の里を2敗の四人が追う形になった。熱海富士・藤ノ川の両関脇がカギを握っている感じになってきた。

●9月22日(十日目)

金峰山は新入幕の寿之富士を破って2敗を守った。突き押し相撲の金峰山が、徐々に四つ相撲を身につけてきた。藤ノ川は立ち合いで少々変化を見せて隆の勝を突き落とした。連日、突き刺すような鋭い立ち合いを見せていたので、相手は想像もしなかったことで、戸惑ったかもしれない。

安青錦が難敵美ノ海を下して、美ノ海を2敗から引きずり下ろした。低い構えの相撲の巧者同士の取り組みで注目したが、安青錦に凱歌が上がった。

熱海富士はやや重心を低めにして、体ごと攻める取り口が日を追って目立ってきている。琴櫻は何もできずに土俵を割った。熱海富士が自信をもって相撲を取っているのが目立つ。

大の里は徐々に本来の相撲に戻ってきて、昨日あたりから腰の構えが良い前進相撲が蘇ってきた。

●9月23日(十一日目、さて残りは五日しかない)

朝乃山が「これぞ朝乃山相撲」というような見事な相撲で金峰山を寄り切り、2敗から引きずり下ろした。また、熱海富士は霧島の両差しに攻め立てられて、巻替えに乗じての寄り身に屈した。

ほとんどの相撲ファンが「藤ノ川の素早い激しい動きに翻弄される大の里」を想定して、結びの一番

	横綱・大関	関脇・小結	平幕
10勝1敗	大の里		
8勝3敗	安青錦	熱海富士・藤ノ川	美ノ海・朝乃山・金峰山

を楽しみにしていた。
ところが、何と大の里は立ち合いの鋭い踏み込みと、体全体を使った攻

めで藤ノ川を捕まえて、何もやらせずに土俵際に運び去った。

かくして、中日には想像もできなかった「大の里が二差で独走」の形になってしまった。

●9月24日(十二日目)

3敗同士の取り組み、朝乃山・美ノ海戦は朝乃山が左上手を引いてグイと引き付け、右を返して美ノ海が左手を使えない状態にして寄り切った。さすがの「朝乃山相撲」だった。

藤ノ川は今日も素早い動きで霧島を攻めまくり、土俵際まで運んで押し飛ばして、3敗を守った。

安青錦は金峰山を、大の里は熱海富士を、一方的な相撲で破り、白星を積み上げた。熱海富士の相撲が狂って来た。上位戦が続くのでどんな結果になるだろうか。

	横綱・大関	関脇・小結	平幕
11勝1敗	大の里		
10勝2敗			
9勝3敗	安青錦	藤ノ川	朝乃山

かくして大の里を二差で追う3敗の力士は3人に減った。

残り三日間の対戦相手を想像すると、賜杯争いは大の里が有利な感じがしてきた。

●9月25日(十三日目)

	横綱・大関	関脇・小結	平幕
11勝2敗	大の里		
10勝3敗	安青錦		朝乃山

藤ノ川の突っ張りを上手くあてがって対応した美ノ海は、相手の引きに乗じて食いつくように寄って土俵外へ運んだ。

朝乃山は、今日も全盛期の再来を思わせるよ

うな見事な朝乃山相撲で熱海富士を下して、3敗で残った。安青錦は、膝に余裕のない琴櫻を肩透かして転がして3敗を守った。結びの一番、「今場所の霧島は大の里には勝てないだろう」との大方の予想に反して、大の里を下手投げで仕留めた。大の里は、霧島の左差しに誘われるように右上手を取ったが、脇が締まらずに投げを打ったため、霧島に逆襲(霧島の得意技)された。大の里は右差しで左上手を引くのが得意な型なのだが、左四つになってしまったので上手の肘の締めが不完全になってしまったのが敗因のように感じた。賜杯争いは千秋楽までもつれ込みそうになってきた。

●十四日目(さて、千秋楽は明日)

安青錦は安青錦らしい攻めで霧島を下して、3敗を守った。しかし大の里は、素人目に見ても「粗雑」と思える取り口で琴櫻に土俵際で突き落とされた。腰高で、しかもしっかりまわしをつかんでいない状態で寄ったため、墓穴を掘った。一呼吸おいて、まわしを引き付けて腰を落とせば難なく寄り切れたのだが、「勝ちを焦った」という感じだった。数日前には「これで逃げ切りか」と思われたのだが……。

「千秋楽・結びの一番・相星決戦」という興行価値を産み出したのは、「怪我の功名」か。

●そして千秋楽

大の里は鋭い立ち合いで安青錦を突き起こして一気に土俵外へ運んだ。安青錦が最も嫌う立ち合いで、手も足も出ず完敗。大の里はこういう相撲を取っていれば何も問題はなかったのだが、なぜか今頃になって本気を出した。

横綱の優勝で、協会としてはメンツを保ったとも言える。しかしながら、霧島(綱取り)・熱海富士(大関昇進)に関しては、マスコミ・報道機関・(もしかして協会も?)が騒ぎすぎて駄目にしてしまったということはないのか。白星の数合わせだけで、先走りして騒ぎ立てすぎてはいないか。

そんな心配をよそに今度は「藤ノ川が大関とりの起点」だと騒ぎ始めているようで、大変気になる。

「放っておけば育つ」「育ってから騒げ」「心配のし過ぎ」・・・、教育ママの問題とよく似ている。

●今場所の年齢別成績分布(幕内力士42人)

*印:今場所全休

この表をじっくり見ていると、様々な景色が見えてくるような気がする。

成績 年齢	12勝3敗	11勝4敗	10勝5敗	9勝6敗	8勝7敗	負け越し (含:休場)	人数合計
20～25 歳		安青錦 藤ノ川		義ノ富士	熱海富士 藤凌駕	伯乃富士 琴栄峰 若ノ勝*	8 人
	勝ち越し力士の割合=62.5%						
26～30歳	大の里			琴櫻 藤青雲 尊富士 平戸海 金峰山 朝紅龍 寿之富士	霧島 朝翠龍 朝白龍 時疾風	豊昇龍* 琴勝峰 豪ノ山 狼雅 欧勝馬 錦富士 獅司 王鵬 湘南乃海	21 人
	勝ち越し力士の割合=57.1%						
31～35歳			美ノ海 朝乃山 宇良 若元春		阿炎	大栄翔 隆の勝 一山本 正代 若隆景* 翔猿 千代翔馬	12 人
	勝ち越し力士の割合=41.7%						
36 歳～						高安	1 人
合計人数	1	2	4	8	7	20	42 人